

厚木基地の歴史探訪



掩体に入る参加者



現代の航空機を見学

自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 明神忠雄 3等海佐）は、8月7日（水）、海上自衛隊第4航空群及び第61航空隊の支援を得て、海老名市及び綾瀬市に所在する中学校の社会科教諭に対し、海上自衛隊厚木航空基地研修を実施した。

参加者たちは厚木基地に到着後、最初に資料館を見学し、厚木基地の歴史に触れるとともに、海上自衛隊の任務等について理解を深めた。その後、厚木基地の広報担当より、基地の誕生から現在までの歴史や現存する施設等について説明を受け、スクリーンに映し出される過去の厚木基地周辺の映像に、参加者は「知らなかった」、「うちの学校だ」などと驚きと納得が入り混じった声を上げていた。説明後には隊員食堂において昼食を体験喫食したが、参加者たちは自衛隊独特の食事の準備に戸惑いつつも「美味しい」などの感想や厚木基地に関する会話が笑顔が溢れる時間となった。

午後からは、厚木基地内に残存する当時の施設を見学した。実際に掩体に入ると、「涼しい」、「広い」などと言いつつながら当時の様子に想像を膨らませていた。最後にC-130R輸送機を見学して基地研修は終了したが、参加者からは、「現代の航空機に『平和』を感じた」、「他の近隣市内の教諭にも見せたい」などの言葉をいただくなど、厚木基地及び自衛隊への理解が得られ、充実した一日となった。

厚木募集案内所は、「今後も自衛隊の理解促進、防衛及び人的基盤の確立を図るため、創意工夫を凝らした募集広報を実施していく」としている。

夏の広報

（横須賀基地で護衛艦『いずも』見学）

自衛隊神奈川地方協力本部横須賀地域事務所（所長 田尾雅弘 3等海佐）は、海上自衛隊横須賀基地見学に募集対象者及び保護者を引率しました。8月9日のことです。この日は金曜日なので海上自衛隊の昼食はカレーです。参加者たちは普段食べることができない「海自カレー」を体験喫食し、「美味しい！」と笑顔で浮かべていました。

午後からは、海上自衛隊史上最大の護衛艦である『いずも』の艦艇見学が行われました。乗員から、船の構造や装備・機能など護衛艦『いずも』の特長や、艦内で乗員がどんな生活をしているのかなどの説明があり、参加者たちは熱心に聞いていました。参加者からは、「最大の護衛艦の『いずも』を見学することができて嬉しかった」、「艦橋のとても高い場所から海を見ることができて面白かった」といった声が聞かれました。

引率した横須賀地域事務所は、「横須賀市内のみならず、遠方からも参加していただいたこと、楽しく食事や見学をしていただいたことは自衛隊に対する理解を深めてもらう大変良い機会となりました。また、協力していただいた関連部隊に対しても感謝しております」としています。

神奈川地方協力本部は、今後も積極的に広報活動を実施し、自衛隊員の募集に取り組んでまいります。

